

暮らしを支えるみなとの情報誌

Vol.92 June 2015

港湾

特集

賑わいの創出

座談会

みなとまちづくりを
通じた地方創生

女性みなと街づくり苦小牧代表

大西育子

NPO法人せとだ港房理事長

長澤宏昭

小名浜まちづくり市民会議副会長

鈴木泰弘

特定非営利活動法人

大分ウォーターフロント研究会常務理事

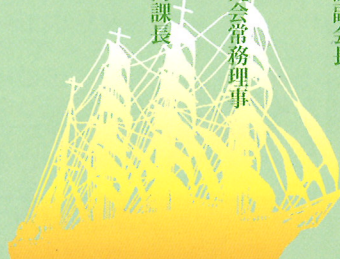
早瀬康信

国土交通省港湾局産業港湾課長

高田昌行「司会」

6

月号



公益社団法人日本港湾協会

The Ports and Harbours Association of Japan

元気なビーチとは。 ～各地のビーチ活性化の歩み～

NPO法人日本ビーチ文化振興協会理事長
朝日 健太郎

地域の特性により活用もオリジナリティに。

海水浴文化が衰退、東日本大震災からの風評被害等、海辺を持つ地域は過疎化に伴い、高齢化している。四面を海で囲まれた島国である日本の海岸線の長さは、世界でも6位であり且つ日本は四季文化であることから、美しい景観、食、環境の潤った海辺を有効に活用しない手はない、と考える。その手段は通り一遍でなく、地域の特性に応じた活用手段を検討することが必要であり、それがその海辺のブランディングとなり観光誘致に繋がってくる。

地域の特性による活用事例を挙げてみる。

(1) 観光地として造られた海辺 (写真1、2、図1) [東京都港区お台場海浜公園おだいばビーチ]

●メリット

立地が良く、施設(トイレ、シャワー、ロッカー、飲食等)環境に優れていて、周りには商業施設があるため、天候に関わらず観光客が溢れている。

●デメリット

地元住民が使用しづらい程、規制が厳しい。自由に使用することが困難なため、住民の集いの場として活用されていない。

●対策

管理団体と地元の集まりの場を設け意見交換を重ねる中、ビーチバレーボールの活用による通年利用



写真1 お台場海浜公園～おだいばビーチ～



写真2 お台場ビーチバレー

について検討、イベントから利用しやすい状況を作ったうえで地元住民による「ODAIBAビーチバレー」というコミュニケーションサークルを作り、定期的な活用促進をした。(5月～12月 年間30回前後の回数で一般参加型ビーチバレー4人制大会を開催) 現在では、関東エリア中心に年間6,000名の利用者が集う日本でも唯一の大会となり、お台場はビーチバレー草大会のメッカとなり、運営費は参加エントリ一料で賄える組織となる(受益者負担)。

(2) 海辺活用できる時期が短い海辺 (写真3、4) [新潟県新潟市日和山海水浴場/ 京都府京丹後市夕日ヶ浦海岸]

●メリット

日本海側の海辺は砂質がよく夏場は波が立たず風が強い為、防砂ネットを張るといっさい人は寄りつかない。高波の心配。



写真3 サンセットビーチランin京丹後2014



写真4 新潟県新潟市日和山浜海水浴場



写真5 ちびっ子はだし運動会



写真6 ちびっ子はだし運動会



写真7 一般大会「ビーチバレー九州大会」



写真8 魚つかみ取り大会

(4) 防災として造られた海辺 (写真7、8) [大分県別府市餅ヶ浜海岸]

●メリット

津波から守る面的防護として造られたため、砂地の面積が広く利用しやすい。気候が温暖で過ごしやすい。

●デメリット

温泉街に面しているため海水浴はできず、団体旅行が減少する中、大型旅館の経営不振。

●対策

地元の地域活性化を目的とする団体(観光協会、旅館組合、商工会等)と海水浴以外の海辺を活用する、観光誘致促進となる宿泊タイプのイベントを構築。九州全域から愛好者が集まる一般大会「ビーチバレー九州大会」(約100チーム)を開催。広い立地を活かし12面のビーチバレーコート仮設。その他、棧橋を活かした釣り大会や漁港組合による「魚つかみ取り大会」など地元愛郷心を育み、宿泊目的のイベント内容とする。

は海外でも人気が高く、多く有効活用されている。

●デメリット

海辺を活用できる時期が短く(7月～9月一杯)風が強い為、防砂ネットを張るといっさい人は寄りつかない。高波の心配。

●対策

良質な砂質やサンセットの景観を活かし海水浴ではなく風を利用したスポーツカイト、地元の人々が気軽に集えるマラソンコース、遊歩道など生活習慣に馴染む利用を促進することで、愛郷心が育み、冷たい海辺のイメージを一新する。

(3) 海水浴文化で潤っていた海辺 (写真5、6) [茨城県ひたちなか市阿字ヶ浦海水浴場]

●メリット

「東洋のナポリ」と言われた海水浴で知名度がある。都心からの交通の便がよい。

●デメリット

海水浴ブームが去り、それに伴う収益が見込めなくなり旅館、民宿は低迷。浸食も進みビーチが細くなり利用するにも手が掛かる。

●対策

インドアバレーボール愛好者を集い、ビーチバレーボールサークルを結成、年間約10回のビーチバレーボール一般大会を開催。「里浜づくり」を目指し、地元有識者、旅館組合等を集い海辺活用について検討する。かつて海辺以外で行われていた祭りや行事を誘致し、海辺を活用したイベントの開催(運動会、ダンス大会、潮吹き、ワーホイ等の伝統的な習慣や文化)。地元が自発的に活動し、集いが多くなるにつれて砂の増設が実現化され海辺の面積も戻りつつある。

21世紀の海辺文化の創造

海辺を活用するメリットは、ニュースポーツであるビーチスポーツの活性化によるオリンピックの創出、観光資源化に伴う雇用促進からのファミリー族の転入、自然環境の正しい知識と理解、はだしによる青少年の育成等、ポテンシャルを秘めており、如何に活用するかによって地域のブランディングに繋がる。防災の取り組みや温暖化浸食による面積減少など、懸念することは多々あるが、島国であるゆえ末長く付き合っていくには、仲良く手を添えて「里浜」とすることが21世紀の海辺文化の創造に繋がっていく。

| 年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 回数(実施/予定) | 13/18 | 24/24 | 15/16 | 22/24 | 20/22 | 17/18 | 22/24 | 20/20 | 19/21 | 30/32 | 30/32 |
| 参加人数 | 1,054 | 1,461 | 1,189 | 3,132 | 3,190 | 2,265 | 2,979 | 2,714 | 2,973 | 5,332 | 5,772 |
| 動員数 | 13,000 | 20,000 | 23,000 | 30,000 | 35,000 | 25,000 | 30,000 | 18,000 | 27,500 | 36,400 | 36,300 |

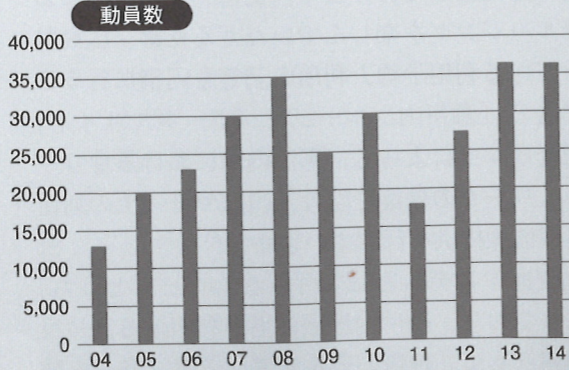
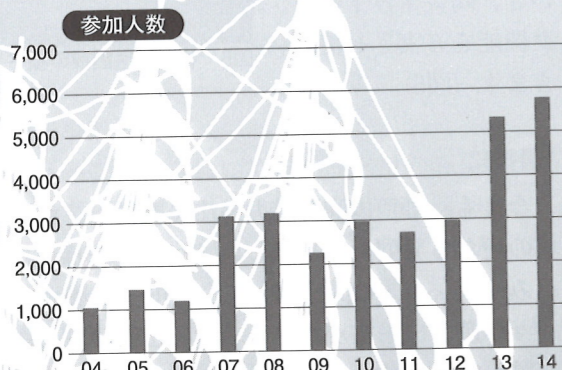


図1 地域の特性による活用事例
お台場ビーチバレー 参加者・周辺動員数推移 (2004年～2014年)